

## 春岡村の伝説

### ・春岡村に伝わる物語五・

さて、今回は春岡村の銭場佐一郎さん(明治三十四年生まれ)が聞いた、カッパのおはなしです。

#### ●カッパのはなし

昔或る一人の子供が川に入った。ところがこの子供は川の深いところに行ったかと思う頃、誰かに徒らでもされたようにゲラゲラ笑いながらその姿は見る見るうちに消えてしまった。いくら時間が経っても出てこないのです、他の人等が驚き右往左往してようようのことで、その死骸を探し出して見ると、子供の尻には大きな穴があいていた。このカッパは盆には特に横行しているから川に入るには注意するようにといわれている。

夏になると、子供達は身体を悪くするのも知らないで川に入りたがるが、そうした子供達を誡めるために流布された話である。

このあたりで川遊びといえば、綾瀬川か見沼代用水の「カッパ」でしょう。

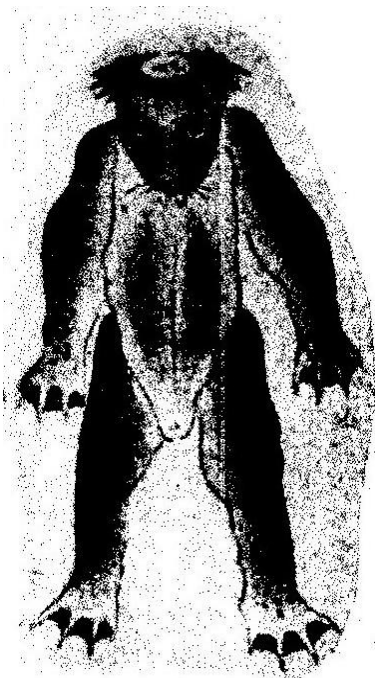
おまけ

#### ●尾籠な話

本村全体というわけではないが、ある一部の家では雪隠(便所)の中に尻を拭いた紙を落すと、雪隠神の祟りを受けて眼病になるといって、雪隠の中に紙を入れぬようにするため、隅に籠をおく風がある。

昭和三〇年ごろまで春岡小学校近くの中村家(中村農園)では実際にカゴがおかれていたそうです。当時この家に泊まりにいった丸ヶ崎の親戚の子はこれがとても嫌だったと話していました。

平山由喜



出典・銭場佐一郎『思い出の春岡』(図書館蔵)  
河童のイラストは、江戸時代のもので、  
『にっぽん妖怪地図』『彩色江戸博物学集成』